

千秀だより

横浜市立千秀小学校

3月号

平成28年(2016)3月 1日



全員が一体となった学びの具現の場としての卒業式を通して

校長 市川幸男

早咲きの桜の便りが耳に届く季節となりました。毎年、桜の便りを聞くと、今年も一年が終わり、新たな一年が始まるのだと気が引き締まります。本年度も、学校運営に当たりまして、地域の皆様、保護者の皆様、そして何より健気に伸びていこうとする子ども達の元気な笑顔に支えられ、無事に過ごすことができました。心よりの感謝を「ありがとうございます。」に込めて、本校に関係して頂いた、すべての方に、送らせていただきます。

先日、学校の中を回っていると、音楽室から「はじめの一步」という歌が聞こえて参りました。その一生懸命さに惹かれて、思わず音楽室の重いドアを開けると、漏れ流れてくるのは段違いの大きな声量の歌が室内一杯に響き渡っています。歌っているどの子どもがいったいに口を開け、中にはピアノのメロディーにのり、体中を揺らして歌っている子もいます。「この歌好きなの？」と聞くと「だって6年生を送る歌だもの」と教えてくれました。「6年生にきれいな歌を届けたいの？」と聞き返しますと、こっくりとしかも力強く首を縦に振り、また歌に戻っていきました。

さて、今月19日に「千秀小学校 卒業証書授与式」を挙行いたします。例年そうですが本校6年生は、スマイル班の班長や委員会・クラブ活動のリーダー、そして各行事の運営役・推進役として、全校児童に模範を示し、最高学年としての役割を十分に果たしてくれています。中でも本年度の6年生は、最上級生としての意識も強く、あらゆる所に細かい気配りができ、献身的に学校を引っ張っていってくれる6年生でありました。千秀小学校として、自信をもって送り出せる立派な卒業生だと思っています。

そんな6年生を送り出す卒業式は、子どもたちにとって晴れの門出の日であり、保護者にとっては、我が子育ての節目であるというように、喜びを実感する大変めでたい日であります。同時に、学校にとっても、学校の教育方針や一年間の全ての教育活動の成果が具体的に表れる一番重要な学校行事であるのです。だからこそ、表面的に形を整えようとする姿勢では、必ず綻びが見えてしまいます。例えば、卒業証書授与の際の姿勢や態度、国歌や校歌斉唱などの声量など、日頃の指導の結果が如実に出てしまうのです。また、子どもも教職員も全千秀小学校の協力体制も十分できているかどうか試されます。2時間弱の儀式の中で、1年間いや6年間の成果を、多くの人々に見ていただきたいと思っています。

6年生に思いを届けたいという切なる願いのもと、防音の壁すらも乗り越える2年生の歌声は、まさにそういった表れなのではないでしょうか。今この時に、全力で指導に当たる先生、その指導の下、精一杯声を出す子ども達。みんな「6年生のために」というただその一点の思いで学びを重ねていきます。もちろんそれは2年生の歌だけではありません。後を継ぐ5年生の思い、そしてそれらの思いを一身に受け止め、背中で卒業する意味を見せてくれる6年生。すべてが、6年間の学校世活の中で培われた千秀小学校の学びの姿です。

この卒業式を節目として、それぞれの児童が、一段ステップを上げ、また新たな学びのステージに上がります。3月は別れの季節とも言われますが、その別れを単なる分かれとせず、多くの学びのもとに新たな一歩を踏み出す、価値ある別れとしていきたいと教職員一同願っています。今年度の御礼を申し上げますとともに、不変の千秀小の良き伝統や良き校風を、今後も皆様のご支援で続けていかれますようにあらためてお願い申し上げます。